

リウマチの外来開始

三次中央病院 県北初 重度に対応

三次市東酒屋町の市立三次中央病院は、リウマチ・膠原病の外来診療を始めた。同病院によると、県北の病院では初めてとなる。

外来診療は毎週木曜の午前9時～正午で、広島大病院の医師が担当。診療は、開業医の紹介を受けた患者に限る。

リウマチは免疫に異常を起し、関節を破壊する病気で、投薬など専門的な治療が必要となる。同病院によると、県北地域でリウマ

チの患者は30～50代の女性を中心に400～500人になるとい

う。これまで、同病院では軽度の患者は内科や整形外科で治療し、症状の重い患者は広島市などの病院を紹介して対応してきた。中西敏夫院長(70)は

「近くで専門的な外来診療を受けられれば、患者の病気の早期治療にもつながる。ニーズを見極めながら、将来的には常勤医師も招き、県北地域における医療の拠点性を高めた」と話している。

(八百村耕平)